拾い出し作業や仕様設定を自動化

パナソニック ハウジングソリューションズ

パナソニック ハウジングソリューションズ（大阪府門真市、山田昌司社長）は、「Webハウズ間取り図積算システム」にAIを使った自動化機能「間取り図AI積算」を追加した。追加する機能は2つで、紙の図面からも自動で拾い出しが可能になる「AI積算」機能と、仕様選定をパッケージ化した「Life Style Fit（ライフスタイルフィット）連携」機能だ。AIを活用した機能を積算システムにおいて提供するのは建材メーカーでは初めて。

これまでの住宅CADソフトでは、紙の図面を読み込む機能はあったが、図面のなぞり書きや拾い出し業務などは手動で続けることが一般的だった。

AI積算は、紙の図面やPDFデータを読み込んだ後に寸法を指定するとAIが部屋別、部材別に自動で拾い出しを実行する機能だ。使用面積から数量を把握する必要がある床材や、使用範囲から数量を求める幅木の拾い出しに特に効果を発揮する。社内で試験したところ、建材製品1棟分の拾い出しに掛かる作業時間が41分から15分に短縮できたという。また、2023年に連携した3社の住宅ライフスタイルフィット連携機能では、構築済みの7つのパッケージからデザインを選ぶだけで内装ドアや床、幅木などの商品を一括で指定できる。AI積算機能で拾い出した後、続けてライフスタイルフィット連携機能を使えば概算見積もりにおける仕様選定時間も削減できる。同機能の適用時間は約2分。選定時間が16分から大幅な短縮になる。

AIを使って設計、見積業務の効率化を実現する

取り図AI積算使用時25分、チェックなしなら17分）。また、施主への提案も事前に色別、グレード別に複数案を準備しやすくなる（通常57分。間取り図作成時間で約3分の短縮になる）。

同システムは、平面図情報だけでも積算システム上に簡易3Dパースで立体的なモデルが生成できるため、仕様の確認、細かな修正にも気付きやすい。帳票、見積書、間取り図付き提案ボード、間配りボードといった関連資料もボタン一つで同時にアウトプットするなどの特徴があった。今回のAI活用で、これまで定型化が困難だった設計と見積もり業務も改善が期待でき、提案、施工に至るまで業務全体の効率化を実現できると同社は期待する。また、今後危惧される、労働人口の減少について、同社は省施工商品とシステム連携によって生産性の向上を図っていく考えだ。

造作用集成材も
JAS製品で
TSC 株式会社 ティ・エス・シー
〒292-0838 千葉県木更津市潮浜2-1-53
TEL/0438-37-0206 FAX/0438-37-2349
ホームページ http://www.syusei-tsc.com

くずまき工房に集成材事業継承

高吟製材所

木質建材の販売は継続

高吟製材所（岩手県岩手郡、高橋宏壽社長）は、くずまき工房（同、竹川高行社長）に集成材事業を継承した。高吟製材所では、内装材などの木材販売は継続し、地域資源を活用する事業を展開している。

高吟製材所は1988年から構造用集成材の製造を開始し、カラ松を中心に小、中、大断面の構造用集成材を年間3000立方㍍生産していた。高橋社長は「葛巻町は林業のまちで、カラ松の品質も良く、地域資源を活用する手段として事業を展開してきた。後継者問題やコスト面での課題の解決に向けて、また地域資源を大切に使える組織としての継承ができた」と述べた。

くずまき工房は2010年に、ラミナ製材工場として設立。葛巻町森林組合等が出資しており、地域のカラ松を中心にラミナに製材し、高吟製材所へ供給してきた。原木ベースで年間6000立方㍍を挽いており、ラミナ出荷は同2500立方㍍となる。

これまで、原木は葛巻町森林組合、ラミナはくずまき工房、集成材生産は高吟製材所という体制のなか、集成材販売は、高吟製材所の直売のほか、同森組系列のくずまき工房が高吟製材所の集成材生産事業を継承したことで、原木調達から製品出荷までのコストを下げることが可能となった。

集成材工場は、高吟製材所が使っていたものをそのまま受け継ぎ、人員も工場長以下全員が1月1日付でくずまき工房に異動。JAS認証も継承する形のため、今までと変わらない構造用集成材の生産が可能で、年間3000立方㍍を製造する予定だ。

今までと変わらず地域材を活用した集成材の生産を行う

病院・診療所のエックス線室、鉛でなくても良いんです。
無鉛ボード XP
デンタルボード XS
アニマルボード XG
放射線防護工事・線量測定・遮へい計算・関連用品販売
医建エンジニアリング株式会社